

令和 4 年度小松市立串小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・ 8 月提出）	取組の成果と課題（年度末・ 3 月提出）
生徒指導	〈積極的な生徒指導の推進〉 ・全教職員が一人ひとりの児童にあたたかい声をかけをするなどして、積極的な生徒指導を行う。 ・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした学年・学級経営や授業づくりを行い、児童の主体性を育む。 ・いじめアンケートやハートホットタイムを生かして、いじめ・不登校の未然防止や早期解決に努め、児童一人ひとりが「学校が楽しい」と思えるようにする。	○学校は楽しいですか。（児童）90.5% ○元氣よく学校に行っている。（保護者）96.6% ◎保護者アンケートは昨年度に比べて+2.2%であった。日頃から保護者との関係づくりや連絡を密に行った。 ★児童アンケートでは昨年度に比べて-1.3%、「子どもの声意識調査」の結果では、同項目で肯定的回答が98%であった。今後も生徒指導の3機能を生かした学級経営や授業づくりを継続的に行うと同時に、いじめアンケートなどから否定的な意見を記入した児童を把握し、学校全体で見守っていき、個に応じた手立てを行っていく。	
特別支援教育	〈組織的な対応を行い、個に応じた支援の充実を図る〉 ・特別支援校内委員会で支援のあり方について話し合い、適切な支援を組織的に行う。 ・特別支援教育支援員、学習サポーター、スクールカウンセラー、心の相談員の効果的な活用を行い、支援体制の充実を図る。 ・小松市教育センター相談事業、県専門相談員派遣事業を活用し、個に応じた支援の充実を図る。 ・学年間・全職員間で支援の在り方について話し合い、生徒指導との効果的な連携を図りながら、チーム力を生かして適切な支援を行う。	○週に一度、学年間で支援が必要な児童に関する情報共有を行った。（職員）100% ○月に一度、全職員間で児童の情報共有を行った。（職員）100% ◎月に一度「児童理解の会」を行い、全職員間で気になる児童・事案について情報共有を行った。それらを踏まえ、学級の状況に応じた支援員や学習サポーターの支援の充実を図った。 ★スクールカウンセラーや心の相談員に関しては、目的に合った活用の仕方を工夫する必要がある。相談したい児童が相談できる体制づくりを進めていく。 ★今後も校内の支援体制の整備・関係機関との連携を丁寧に行い、問題行動の記録や個人のプロフィール表・個別的教育支援計画などを活用して、全職員間・学年間で効果的な支援の在り方を考えていく。	
道徳教育	〈心に響く道徳教育の推進〉 ・考えとなる発問や視覚的にわかりやすい板書、振り返りを交流する終末など工夫した授業を実践する。 ・重点目標の「個性の伸長」「友情、信頼」を意識した授業を行う。 ・教育活動全体を通して日常的に道徳的価値を意識できる言葉かけを行う。	○考えとなる発問や視覚的にわかりやすい板書、振り返りを交流する終末など工夫した授業を実践できた。（教員）91.7% ◎道徳だよりを発行し、重点目標や板書の写真を載せて共通理解した。また、授業に生かせるよう発問や振り返りについての資料を配布した。アンケートで肯定的な回答をした教員は91.7%で、ほとんどの教員は実践できている。 ★全教員が意識して授業の実践ができるよう、継続して発問や板書、終末についての資料を配布したり声かけを行っていく。また、配布した資料を用いてのミニ研修会を打合せの時間等に行う。	
読書教育	〈心が豊かになる読書活動の推進〉 ・週1回の朝読書や図書室使用割による利用で、読書習慣を定着させる。また、必読「おすすめ10冊」や図書委員による「本のお楽しみ袋」や「読み聞かせ」等の企画で、読書活動の質の向上に努める。 ・子どもの学習のニーズに応えられるよう、読書環境を整備し、学校図書館を学習・情報センターとしての機能も高めていく。	○効果的な図書室利用と適切な読書の機会を確保するとともに、おすすめ10冊や並行読書で、読書の質を向上させるための取組を行った。（教員）91.7% ◎課題図書の紹介や、学年別にテーマを設けての本の総選挙等実際に本を手取る機会を設けたことで、質の向上や、選書の手立てにつながった。学習活動の中に、読書の時間を確保することが難しい中、委員会活動をうまく利用したことで、読書の機会を確保することができた。先生方からも大変好評だった。 ★GIGAスクール構想の中でも、学校図書館が学習活動において機能できるよう、環境の整備に努めるとともに、児童が自分で選書できるようになる手立てを行っていく。	
保健健康教育	〈望ましい生活習慣の確立と体力・運動能力の向上〉 ・感染症対策とメディアへの適切な関わり方を中心に健康的な生活への意識が高まる取組を継続し、望ましい生活習慣の確立をめざす。 ・体力アップ1校1プランの取組を推進することにより、体幹強化となわの運動を通して体力・運動能力の向上をめざす。同時に、正しい姿勢が児童に身に付くように働きかけていく。	○早寝・手洗い・メディアへの関わり方を中心に、健康的な生活を意識している。（教員）100%（保護者）76.2%（児童）93.4% ◎正しい姿勢で学習している。（児童）85% ◎早寝・ハンカチ・スバゲティ週間を児童に向けて毎月実施し、家庭学習がんばり週間で家庭との連携を図りながら、児童の健康的な生活への意識を高めてきた。毎日の体幹トレーニング、月1回のロコモチェックを実施し、児童の体幹の強化と正しい姿勢への働きかけをしてきた。 ★子どもロコモチェックの結果を体育委員会よりとして児童に示していく。スボチャレ強化月間を設け、シャトルボール、8の字と字に加えて短なわに取りませ、体力アップの推進を図る。また、学校保健委員会では、外遊びや運動で健康的な生活の向上をめざす視点で取り組み、保護者育友会保健委員会と協力しながら、正しい姿勢、体力アップにつなげていく。	
情報教育	〈GIGAスクール構想の充実〉 GIGA校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を進め教員のICT活用指導力を高める。タブレットの使用回数を増やし、効果的な活用を目指す。 ・教員の専門性を生かし、教科特有のタブレット活用方法について研修を行う。その際、市のサポートや県の出前講座を効果的に活用する。 ・児童が効果的にタブレットの機能を活用して、友達と協働的に学習する。	○タブレットを複数の教科で使用した。（教員）93.8% ○SKYMENUの複数の機能を使用した。（教員）93.8% ○タブレットを使って友達と考えを伝え合う。（児童）91.3% 情報モラルの研修や県の出前サポートを活用した研修を行うことができた。使える機能が増えてきたことで、教員も児童も活用する場面が増えてきたことにつながったと考える。 ★一方で、機能は分かっているが、どのような場面で使うと効果的なのか分かっていなかったこともあり、まだ効果的な活用になっているとは言えない。2学期以降は、機能の具体的な活用場面がイメージできるような研修を企画していきたい。	
家庭と・地域社会との連携	〈社会に開かれた教育課程の実現〉 生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材、地域教材の開発を行い、地域を理解し、地域への愛着を高める取組を行う。また、学校研究の「探究的な学習」とも絡め、学習したことを地域社会へ発信することで学びの広がりが深まりにつなげていく。	○地域人材・地域教材の活用に取り組んでいる。（教員）62.5% 1学期は地域人材を活用する機会が少なかった。2学期より本格的に生活科・総合的な学習の計画を進めていく。その中で、地域人材や教材の効果的な活用の仕方・工夫を考え、実践していく。	
人材育成	〈目的を明確にした校内研修の充実〉 ・職員のステージに応じたミニ研修をニーズに応じて開催し、資質・能力の向上を図る。 ・学校課題に応じた全体研修を開催し、組織力の向上と学校運営への参画意識の向上を図る。 ・各主任と連携し、研修の場の設定を工夫する。 ・学年経営と運営部会を機能させ、日常的なメンター制の充実を図る。	○校内研修会は、教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）100% ○各主任と連携した研修を行ったり、各自が行った出張報告を計画的に行い情報を共有したりすることで、資質・能力の向上を図ることができた。 ○自校での研修の他に、市教委と連携した研修（生活・総合的な学習の時間）や、県の研修（若プロオンライン研修）も実施し、バランスをとりながら様々な研修を行うことができた。 ★全員参加の研修だけではなく、担当者や話をしながら、ステージ別や希望者といった研修を弾力的に開催できるように調整していく。	

学校関係者評価	
---------	--